

## M11b ひので・EISを用いたX線輝点の時間変化解析

市川幸平、片岡章雅、篠木新吾、伏見直茂、橋本祐樹、渡邊皓子、北井礼三郎、石井貴子

太陽観測衛星「ひので」によって、太陽表面にはX-ray Bright Point(XBP, サイズ 2-3 万 km) がコビキタスに存在することが発見された。Hui Tian et al. (2008) によると、XBP は遷移層とコロナで異なる速度構造を示し、異なる加速メカニズムを持つとされている。光球での bipolar に対応することや、コロナでの force-free field との比較により、遷移層での増光は magnetic cancellation に、コロナでの増光は separator reconnection にそれぞれトリガーされていると彼らは考えている。

我々はこれを別の例でも確認するために、2007 年 10 月 10 日から 11 日にかけて XRT,EIS,SOT で観測された XBP 1 例について解析を行った。この XBP は XRT でループ構造をもち、時々transient なejection が観測された。今回の EIS 解析では (Fe XII 195Å, log T=6.2) でループ状の blue shift(10km/s) を発見した。

今回のポスター発表では、この輝点の EIS を用いた温度解析、SOT Na IV を用いた磁場構造の時間変化を追った結果を紹介する。さらに SMART の H $\alpha$  像との比較も行う。